

## 2009年3月期決算説明会 主なQ&A

Q 2010年3月期の新幹線運輸収入の見通しの考え方は。

A 2010年3月期の新幹線運輸収入は、非常に厳しかった2009年3月期の第4四半期の傾向が上期の間は続くことを前提に、景気の更なる悪化や高速道路料金引き下げ等のリスクも加味して想定している。下期については、昨年12月以降にご利用が急速に悪化したことを踏まえ、ある程度底を打つと想定している。これに、今夏にサービス開始予定のEX-ICサービスの効果や曜日配列の影響等の要因を織り込み、通期では対前年比3.1%減と想定している。

Q 高速道路料金引き下げの影響はどの程度あると見ているのか。

A それなりの影響はあると考えているが、過去にない事象であり、正確な形で予想することは難しい。足元のご利用動向を見ても、引き下げ前後で顕著な差は出ていない。

Q 今後のコスト削減の考え方や規模感は。

A 「経営改善実施本部」を立ち上げ、トップ主導で取り組んでいくこととしている。安全性を維持・向上させながら修繕費、業務費等を下げていくための取り組みを広い範囲で行っていくが、今の時点では、どの程度の効果を出せるのかを申し上げられる状況ではない。こうした取り組みは、会社全体の仕事の仕組みの見直しや社員の意識の変革の面でも有効だと考えている。

Q 設備投資について、2010年3月期は2,300億円と前期と比して大きく増加する計画だが、これは中期経営計画の範囲内なのか。

A 中期経営計画で定めた2009年3月期から2013年3月期までの5年間で総額9,800億円という設備投資計画は変えていない。従来より、2011年春に予定している九州新幹線との相互直通運転の開始や大阪駅開発プロジェクトの完成に向け、2010年3月期と2011年3月期は設備投資が高い水準になると想定していた。昨今の事業環境の悪化を受け、見直しや後送りを検討する件名もあるが、設備投資計画の総額は大きくは変わらない。

Q 自己株式の取得について、実施するか否かを判断する基準はあるか。

A 自己株式の取得については、キャッシュフローの状況に応じて機動的に実施していくこととしている。今期、来期は設備投資が高い水準となるため、キャッシュ面の余裕はあまりないが、その後、プロジェクトが完成して再び余裕が出てくれば、ROEの改善に向けたひとつの手段として活用していくことも考えられる。

以上